



事務所：長野県伊那市西町 5016-2 電話 0265(76)5858 例会日：毎週火曜日 例会場：海老屋料理店 0265(72)2158
会長：井上 修 副会長：鈴木一比古 幹事：加藤 篤 公共イメージ向上委員長：瀧谷恵二

**UNITE
FOR
GOOD**
よいことのために
手をとりあおう

2025-2026年度 RI会長メッセージ
よいことのために手をとりあおう

2025-2026 RI会長
フランチェスコ・
アレツォ
<イタリア>



第1766回 職場訪問例会 令和8年1月20日(火)

『信州大学農学部キャンパス見学会』公益財団法人 信州農林科学振興会様

【スケジュール】

- ◆10:45 海老屋さん前マイクロバス出発
- ◆11:00～12:00 キャンパス見学会（於：信州大学農学部・ゆりのき資料館）
 1. ご挨拶・・・・・・・・・・財団理事長 南 峰夫 様
 2. 信州大学農学部について・・・農学部教授 齋藤勝晴 様
 3. 農学部産学連携について・・・産学連携室 伊藤博徳 様
 4. 農学部キャンパス見学・・・農学部教授 齋藤勝晴 様
 5. ゆりのき資料館見学
 6. 挨拶・・・・・・・・・・伊那中央RC会長 井上 修
- ◆12:30～13:30 通常例会（於：例会場）



■ ゲスト・ビジター紹介

・支援留学生 ジュ イェソン 様 (オンライン)

■ 会長挨拶

井上修会長



新規職員採用について面接が1月23日に行われる。以下唐澤委員より申し出があり了承し、1月20日の例会時の会長談話にて発表して頂く事にした。

井上会長 お世話になっております。唐澤です。事務局職員の採用について、いよいよ面接が近づいてきましたので、一点ご相談がありメールいたしました。今回の採用は、長年クラブを支えてくださった方のご退職と、今後の運営体制（勤務時間管理等）への移行を見据えた、クラブにとって一つの節目になるものだと感じています。ロータリークラブならではの「奉仕の精神」や独特の文化、またメンバー（主に経営者層）との距離感を考えると、事務処理能力以上に、

・場の空気を理解した立ち振る舞い

・安心して任せられる信頼感といった点が重要になるのではないかと考えました。

一方で、今回の面接は、必ずしも採用面接に慣れていないメンバーで行うこともあり、それぞれの感覚だけで判断すると、評価の視点がばらついてしまう可能性もあるのではと思っています。

そこで、可否を機械的に決めるための基準ではなく、「この方にクラブの運営を安心して任せられるか」を同じ目線で話し合うための“共通の視点”として、簡単な考え方と評価の観点をまとめた資料案を作ってみました。

1. 採用のコア・コンセプト

「事務ができる人」ではなく、「クラブの顔として、メンバーが心地よく活動できるよう支えられる人」

現任の方が「痒い所に手が届く」タイプだったからこそ、次の人にも「ホスピタリティ（おもてなしの心）」を求めつつ、一方で「新しいルール（勤務時間）」を守れるバランス感覚が必要です。

2. 評価基準（5つのチェックポイント）

面接官全員で共有する、5段階評価の項目です。

① 社会人マナーと品位

言葉遣い、身だしなみ挨拶が適切か。

（メンバーは地域の経営者が多いため、失礼のない対応が必要）

② 柔軟なコミュニケーション

相手の話を丁寧に聞き、にこやかに対応できるか。

（仕事を教わる際、素直に吸収して欲しい。本部やメンバーと円滑にやり取りをして欲しい。）

③ 基本的な事務ITスキル

パソコン入力、メール、簡単な会計（出納帳程度）ができるか。給与計算等のクラウドシステムの利用に抵抗感がないか。

（事務的業務を正確にこなすために必要な能力）

④ 業務の効率性と時間意識

決められた時間内で仕事を完結させる意識があるか。

仕事の優先順位を自分で判断できそうか。

（無理な残業をせず決められた時間内で効率よく働いて欲しい）

⑤ クラブ適応意欲

奉仕団体と言う特殊な場を面白がれるか。

特殊な用語や運営方針に馴染めるか。

（営利目的ではない「お付き合い」の側面を理解し、円滑な関係性を築けそうか。）

■ ニコニコボックス

- ◆井上修 信州大学見学会、ご参加ありがとうございました。特別企画も、後3月の裁判所傍聴になりました。通常活動共に宜しくお願い致します。
- ◆加藤篤 信大へ行かれた皆様お疲れ様でした。今さらながらもっと大学に通い勉強すれば良かったと思いました。
- ◆橋爪麻人 武井さんのいない加藤幹事と2人での打ち合わせはバタバタで、事務所が散らかっていたらごめんなさい。
- ◆池田幸平 信大を見学させていただき、自分の学生時代を思い起こしました。井上会長同様図書館へ足を運ぶことはありませんでした。皆さんも同様でしょうか？

■ 幹事報告

加藤篤幹事 幹事報告は別紙をご覧ください。

■ 委員会報告

・1月11日(日) インターアクト冬合宿・国際交流研修セミナーの報告

井上修地区IA委員

松本市勤労者福祉センター

10時30分～14時30分。

ロゲイニングとは、地図とコンパスを頼りに、制限時間内に地図上に示されたチェックポイント(CP)をできるだけ多く回り、得点を競うナビゲーションスポーツ。

高校生26人・(高校・松商、南安曇・文化学園・松本第一・松本国際) 教師2人・ロータリアン2人 関係者4人

7チームに分かれロゲイニングを行いました。松本市内の32ヵ所、それぞれの作戦で競技開始です。車・自転車・交通機関は禁止。歩くのみ。昼食時間は自由。ポイントで全員の写真を撮り提出する。15分遅刻で失格。優勝は1300点の高校生チーム。顧問教師・ロータリアンチームは14Km・2万歩・901点で5位でした。



・1月15日(木) 米山奨学生面接官説明会の報告

唐澤知子地区米山委員



2026年1月15日(木)17時30分より、米山奨学生選考の面接官説明会が、ZOOMにて開催されましたのでご報告いたします。

説明会では、まずロータリー米山記念奨学会の目的について確認がありました。本奨学会は、留学生の優れた学業の達成を支援するとともに、カウンセラーや世話クラブとの交流を通じてロータリー精神を学び、国際理解を深め、日本と母国との架け橋となるなど、国際親善に尽くす人材を育成することを目的としています。

その目的を踏まえ、奨学生に求められる資質として、

- ①学業
- ②異文化理解
- ③コミュニケーション能力

の三点が示され、これらすべてにおいて、取り組む姿勢や熱意や優秀性を重視するとの説明がありました。また、一般的な奨学金では経済状況が選考理由となる場合が多いですが、米山奨学生の選考においては、経済的困窮度は選考基準に含まれていないことが改めて確認されました。

そのほか、選考委員が事前に行う準備、面接当日の流れ、班分けおよび注意点について説明があり、公平で統一感のある選考の重要性が共有されました。

以上、説明会の報告といたします。

・「ロータリーの友」1月号紹介 宮下健会員



横 P3：RI 会長メッセージ

「職業奉仕」と「高潔性（インテグリティ）」について深く考えさせられる内容となっています。アレツォ会長は、アメリカ・カリフォルニア州の若者向け自動車修理訓練プログラムを例に挙げ、職業訓練は単なるスキル習得ではなく、人生の方向性を示すこと・社会とつながる力を育てること・尊厳ある自立を支えることであると語っています。特に印象的なのは、「支援とは、意見を押し付けることではなく、地域の声に耳を傾けること」というメッセージです。ロータリーが大切にしてきた四つのテストが、今もなお職業奉仕の実践指針として生きていることを改めて感じさせてくれます。

横 P6～7：職業奉仕月間特集

日本の伝統工芸「輪島塗」を支える人々と、その仕事が丁寧に紹介されています。輪島塗は、完成までに 124 もの工程を要し、多くの専門職が分業と信頼によって一つの作品を仕上げる世界です。そこには、まさにロータリーが大切にする「職業を通じた奉仕」の本質があります。特集では、令和 6 年の能登半島地震により、工房や町並み、そして暮らしそのものが大きな被害を受けた現実にも触れています。それでもなお、伝統を守ろうとする職人、技術を学び続ける若い世代、輪島塗を未来につなごうとする人々の姿が紹介され、「仕事とは、生き方そのもの」であることを伝えてくれます。また、自分の職業は、誰の未来につながっているのかを問いかけています。

横 P18～P21：ワークウェア例会で仲間の仕事をもっと身近に

例会場へ仕事着で集い、それぞれの職業観や仕事への想いを語り合う「ワークウェア例会」。仕事で何を大切にしているのか、四つのテストをどう実践しているのか、仲間の仕事から何を学んだのか等、職業奉仕を“実感”する例会として紹介されています。皆様、一見すると異なる職業ですが、共通しているのは、誠実さ・責任感・当たり前を守る姿勢。職業奉仕は特別な活動ではなく、日々の仕事の中にあることを教えてくれます。

縦 P2～6：寄り添いの経営 — 「あゆみシューズ」に込めた職業奉仕

徳武産業株式会社 代表取締役会長・十河孝男氏による「寄り添いの経営」の実践が詳しく紹介されています。高齢者や介護が必要な方の「自分で靴を履いて外に出たい」その想いに徹底的に寄り添い、誕生したのが介護用シューズ「あゆみ」。左右サイズ違い・片方販売という、業界の常識を超えた挑戦は、当初こそ失敗や反対に直面しますが、お客様の声を信じ抜いた結果、多くの「ありがとう」と笑顔を生み出す商品へと成長していきます。この記事で印象的なのは、利益よりもまず「困っている人」に目を向ける姿勢、社員一人ひとりの想いを大切にする経営、仕事を通じて人の人生を支える覚悟、職業奉仕とは、仕事で人の尊厳を守ることであると、教えてくれる内容です。

縦 P18 ロータリーあるある相談室

クラブ懇親会の最後に歌う「手に手つないで」好きなのですが、苦手という相談です。田中氏は、多様な価値観を持つ人々の集まりだからこそ、自分だけの信条を主張するのではなく、寛容の精神を大切にすべきだと説きます。手をつなぎたくなければそれでも良いが、共に活動する意欲が湧かないかもしれない、という点は、組織運営における人間関係の難しさを物語っています。一方、宮里氏は、時代に合わせて伝統も取捨選択し、良いものは次世代に引き継ぐミッションがあると述べています。ハラスメントになる可能性を考慮して「エアー手に手つないで」を導入する地区もあるという事実は、変化への対応が現実問題となっていることを示しています。最終的にこの記事が問いかけるのは、「先人たちの思いと英知」をどう現代に適合させていくか、そして「わがままで自己中心的な判断をしない」ためには何が必要か、ということでしょう。

■ 出席報告

会員数40名 出席免除会員4名 長欠会員1名 本日出席者（例会場）25名（ZOOM）1名
事前メイク1名 出席率77.14% 前回出席率 修正なし

■ 点 鐘

13 : 30

次回例会

1月27日（火） 点鐘／12:30 場所／海老屋料理店

・例会終了後：「クラブ協議会（下期はじめ）」・「理事会」